平成３年度厚生省心身障害者研究
「小児慢性疾患のトータルケアーに関する研究」

乳児期のアトピー性皮膚炎の診断について

吹角隆之，青木敏之（大阪府立羽曳野病院）
金森　忍（大阪府藤井寺保健所）
笹井康典（大阪府環境保健部保健予防課）

要約：生後１～２ヵ月から４ヵ月ごろまでに発症する湿疹の多くは一過性で乳児脂漏性皮膚炎とよばれることが多いが、乳児期のアトピー性皮膚炎だとする人もあり、一定しない。乳児期における湿疹がアトピー性皮膚炎かどうかを診断することはなかなか難しい。またその診断基準もはっきりと定まっているわけではないのが現状である。今回我々は同じ乳児を４ヵ月時と11ヵ月時の２回観察することにより乳児期の湿疹の分布とその推移を調べた。４ヵ月時には湿疹は頭部・顔面に多く、上胸部にもおよんでいるものもみられた。11ヵ月時には頭部・顔面の湿疹は減少し、上胸部・上背部・体幹前面に多くなり、膝窩・足関節・肘窩などにもみられ、４ヵ月時とは明らかに湿疹の分布が異なっていた。４ヵ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児107名のうち11ヵ月時にもアトピー性皮膚炎と診断されたものは34名であった。一方、11ヵ月時にアトピー性皮膚炎と診断された乳児56名のうち22名は４ヵ月時にはアトピー性皮膚炎とは診断されていなかった。乳児期においてもかなりダイナミックに湿疹が変動することが分かった。

1. 対象

藤井寺保健所管内（人口18万１千人）の平成２年６月から９月までの出生児611人

2. 方法

生後４ヵ月時、11ヵ月時での医師による皮膚の診断、家族歴等に関する問診表（自記式）

3. 調査児数

生後４ヵ月時、11ヵ月時での医師による皮膚の観察を共に受けた児436人（対象の71.4％）

4. 皮膚所見

全身を自然肢位にて50部位に分けて観察

重症度は次の３段階に分けた

①軽度紅斑・丘疹・鱗屑・乾燥皮膚のいずれか

②紅斑・丘疹・鱗屑の混在

③湿潤局面

掻破も３段階に分けた

①線条掻破痕

②①と③の中間、軽い苔癬化を含む

③苔癬化

重症度と掻破の点数を加え２以上を病的とし湿

疹のある部位とした

5. 判定

重症度、掻破および湿疹の数により

アトピー性皮膚炎

要医療

要精査

要観察

アトピー性皮膚炎ではない

と4段階に分けて判定した。

結果：（表1）全対象乳児436名における湿疹の存在部位(%)を示したものである。4カ月では頬部44.0%、額21.3%、被髪部21.1%、顎13.3%、眼囲9.9%、耳9.6%、頸部8.9%など顔面・頭部・頸部に湿疹が多くみられ、11カ月時では頭部・顔面の湿疹が少なくなって、上胸部9.6%、体幹前面5.0%など体幹の湿疹が増えている。11カ月時には4カ月時に比べて湿疹の数が明らかに減っている。

（表2）全対象乳児436名のうちアトピー性皮膚炎と診断した乳児（左列）とそうでないと診断した乳児（左列）に分けて湿疹の存在部位(%)を示した。4カ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児では頬82.2%・額57.0%・被髪部53.3%・顎34.6%・眼囲30.8%・耳29.9%・上背28.0%・耳後部23.4%・上胸部20.6%・頸17.8%の順に多く、11カ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児では上胸部48.2%・頬46.4%・顎39.3%・上背部35.7%・体幹前面32.1%・膝窩25.0%・耳・被髪部・足関節部21.4%・額19.6%の順であった。4カ月時での湿疹の存在部位の多くは顔面・頭部であるが、すでに上胸部・上背部にもおよんでいる。4カ月時にアトピー性皮膚炎ではないと診断した乳児の中にも頭部・顔面に湿疹を有するものがかなりあるが、上胸部0%・上背部0.6%というように体幹にはほとんど湿疹が無い。一方、11カ月時には顔面・頭部の湿疹は著明に減少し、逆に上胸部・上背部・体幹前面・膝窩・足関節・肘窩などの湿疹が増加しているのが分かる。11カ月児でのアトピー性皮膚炎と診断した乳児ではすでに膝窩・足関節・肘窩などに湿疹が出現し始めており幼児型の分布をとり始めているのは注目に値する。

（図1）4カ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児とそうでないと診断した乳児における湿疹部位の数を示したものである。湿疹の数だけからみるとアトピー性皮膚炎と診断した乳児のほとんどは3カ所以上の湿疹をもっていた。しかし2カ所以下でもアトピー性皮膚炎と診断されているものがいるのは明かに湿疹は少ないが全身の皮膚が乾燥しているアトピー皮膚を有するものが含まれるためである。

（図2）11カ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児とそうでないと診断した乳児における湿疹部位の数を示したものである。湿疹の数だけからみると4カ月児の診断と同様の傾向でアトピー性皮膚炎と診断した乳児のほとんどは3カ所以上の湿疹をもっていた。

（図3）4カ月時と11カ月時の湿疹の部位数を比較したものである。4カ月時に比べて11カ月時には明らかに湿疹の部位数が減少している。

（表3）4カ月時と11カ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児の関係を示したものである。4カ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児107名のうち11カ月時にもアトピー性皮膚炎と診断したもの34名、アトピー性皮膚炎ではないと診断したも

の73名であった。また11カ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児56名のうち22名は4カ月時にはアトピー性皮膚炎ではないと診断されていた。

考按：乳児期の湿疹とアトピー性皮膚炎との関係はまだはっきりとは分かっていない。また乳児期のアトピー性皮膚炎の診断基準も定まったものが無い。今回同じ乳児を4カ月時と11カ月時の2回観察することにより乳児期の湿疹の分布とその推移をみた。

分布に関して4カ月時には頬・額・被髪部・顎・眼囲・耳・上背・耳後部・上胸部・頸の順に多く、11カ月時には上胸部・頬・顎・上背部・体幹前面・膝窩・耳・被髪部・足関節部・額の順であった。4カ月時と11カ月時とではすでに湿疹の分布は大きく異なっていた。

湿疹の推移について4カ月時と11カ月時においてアトピー性皮膚炎の有無をみたわけで次の4群に分けられる。①4カ月時のみアトピー性皮膚炎と診断されたもの73名、②11カ月時のみアトピー性皮膚炎と診断されたもの22名、③4カ月時と11カ月時ともにアトピー性皮膚炎と診断されたもの34名、④4カ月時と11カ月時ともにアトピー性皮膚炎でないと診断されたもの307名であった。わずか8カ月の内にも湿疹はかなりダイナミックに推移することが分かった。はたしてこの4群のうち、幼児期のアトピー性皮膚炎に移行するのはどれなのか今後もこの4群がどのようになるかを追跡調査する予定である。

図1. 4か月時のｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎と診断した児の湿疹部位数

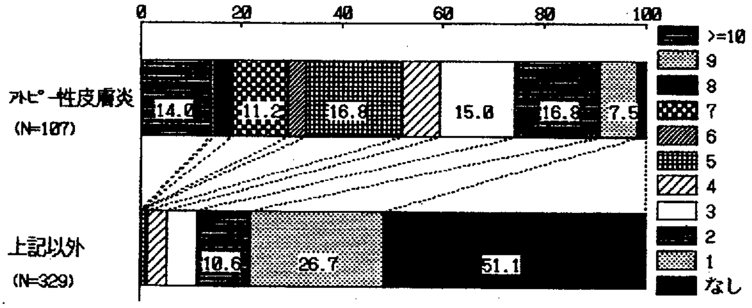

図2. 11か月時のｱﾄﾋﾟｰ性皮膚炎と診断した児の湿疹部位数

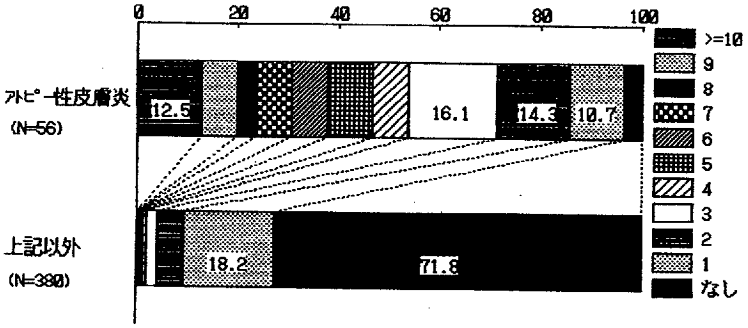

図3. 4か月、11か月時の湿疹部位数の比較

(N=436)

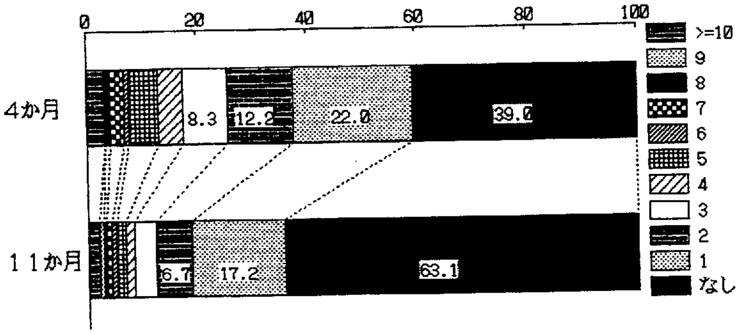

表1. 湿疹がある割合（部位別）

部	4カ月	11カ月	部	4カ月	11カ月	部	4カ月	11カ月	部	4カ月	11カ月
被髪部	21.1	5.5	わき	5.5	1.1	眉	2.1	0	下腿	0.5	0.2
ひたい	21.3	3.9	腋前	1.1	1.8	耳(後)	8.5	3.9	足首	0	0.2
鼻	2.3	0.2	上腕	0.9	1.8	項	3.2	4.8	足底	0	0
鼻下	0.7	1.4	肘窩	1.8	3.2	上背	7.3	6.9	こえじわ	0.2	0
口唇	0	0	前腕	0.7	0.2	体(後)	3.2	3.4			
口角	3.2	0	手首	0	0.5	腋後	0	0.2			
あご	13.3	6.4	手掌	0	0.2	上腕	2.1	1.4			
眼囲	9.9	0.9	鼠径部	3.0	2.3	肘	0.7	0.5			
頬	44.0	11.7	外陰	2.3	3.4	前腕	0.7	0.9			
耳	9.6	4.8	会陰	2.8	3.4	手首	0	0.2			
あご下	0.7	2.1	大腿	0.9	1.4	手の甲	0.2	0.5			
くび	8.9	1.8	ひざ	0.9	1.1	臀	4.6	4.8			
上胸	5.0	9,6	下腿	1.1	0.5	座部	0.9	0.2			
体前	3.7	6.0	足首	0.9	3.0	大腿	0.7	0.9			
乳頭	0	0.2	足背	0.2	0.5	膝窩	2.3	3.9			

（左：アトピー児
右：正 常 児）

表2. 湿疹がある割合（部位別）

部	4カ月		11カ月		部	4カ月		11カ月		部	4カ月		11カ月		部	4カ月		11カ月	
被髪部	53.3	10.6	21.4	3.6	わき	16.8	2.7	3.6	0.8	眉	6.5	0.6	0	0	下腿	1.9	0	1.8	0
ひたい	57.0	9.7	19.6	1.6	腋前	4.7	0	14.3	0	耳(後)	23.4	3.6	8.9	3.6	足首	0	0	1.8	0
鼻	6.5	0.9	0	0.3	上腕	3.7	0	12.5	0.3	項	13.1	0	17.9	2.9	足底	0	0	0	0
鼻下	1.9	0.3	8.9	0.3	肘窩	7.5	0	17.9	1.1	上背	28.0	0.6	35.7	2.6	こえじわ	0.9	0	0	0
口唇	0	0	0	0	前腕	2.8	0	1.8	0	体(後)	13.1	0	14.3	1.8					
口角	14.0	0.3	0	0	手首	0	0	3.6	0	腋後	0	0	1.8	0					
あご	34.6	6.4	39.3	1.6	手掌	0	0	1.8	0	上腕	8.4	0	10.7	0					
眼囲	30.8	3.1	5.4	0.3	鼠径部	5.6	2.1	5.4	1.8	肘	2.8	0	1.8	0.3					
頬	82.2	31.6	46.4	6.6	外陰	2.8	2.1	10.7	2.4	前腕	2.8	0	5.4	0.3					
耳	29.9	3.0	21.4	2.4	会陰	2.8	2.7	10.7	2.4	手首	0	0	1.8	0					
あご下	2.8	0	10.7	0.8	大腿	3.7	0	10.7	0	手の甲	0.9	0	3.6	0					
くび	17.8	6.1	7.1	1.1	ひざ	2.8	0.3	7.1	0.3	臀	10.3	2.7	10.7	3.9					
上胸	20.6	0	48.2	3.9	下腿	4.7	0	3.6	0	座部	1.9	0.6	1.8	0					
体前	13.1	0.6	32.1	1.1	足首	3.7	0	21.4	0.3	大腿	2.8	0	5.4	0.3					
乳頭	0	0	1.8	0	足首	0.9	0	3.6	0	膝窩	9.3	0	25.0	0.8					

表3. アトピー性皮膚炎の診断、生後4カ月と11カ月時の比較

			11カ月時				
			アトピー性皮膚炎				
			総数	要医療	要精査	要観察	異常なし
4カ月時	－	総数	436	10	7	39	380
			100.0	2.3	1.6	8.9	87.2
	アトピー性皮膚炎	要医療	9	1	1	2	5
			100.0	11.1	11.1	22.2	55.6
		要精査	90	6	4	19	61
			100.0	6.7	4.4	21.1	67.8
		要観察	8	0	0	1	7
			100.0	0.0	0.0	12.5	87.5
		異常なし	329	3	2	17	307
			100.0	0.9	0.6	5.2	93.3

検索用テキスト OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:生後1〜2ヵ月から4ヵ月ごろまでに発症する湿疹の多くは一過性で乳児脂漏性皮膚炎とよばれることが多いが、乳児期のアトピー性皮膚炎だとする人もあり、一定しない。乳児期における湿疹がアトピー性皮膚炎かどうかを診断することはなかなか難しい。またその診断基準もはっきりと定まっているわけではないのが現状である。今回我々は同じ乳児を4ヵ月時と11ヵ月時の2回観察することにより乳児期の湿疹の分布とその推移を調べた。4ヵ月時には湿疹は頭部・顔面に多く上胸部にもおよんでいるものもみられた。11ヵ月時には頭部・顔面の湿疹は減少し、上胸部・上背部・体幹前面に多くなり、膝窩・足関節・肘窩などにもみられ、4ヵ月時とは明らかに湿疹の分布が異なっていた。4ヵ月時にアトピー性皮膚炎と診断した乳児107名のうち11ヵ月時にもアトピー性皮膚炎と診断されたものは34名であった。一方、11ヵ月時にアトピー性皮膚炎と診断された乳児56名のうち22名は4ヵ月時にはアトピー性皮膚炎とは診断されていなかった。乳児期においてもかなりダイナミックに湿疹が変動することが分かった。